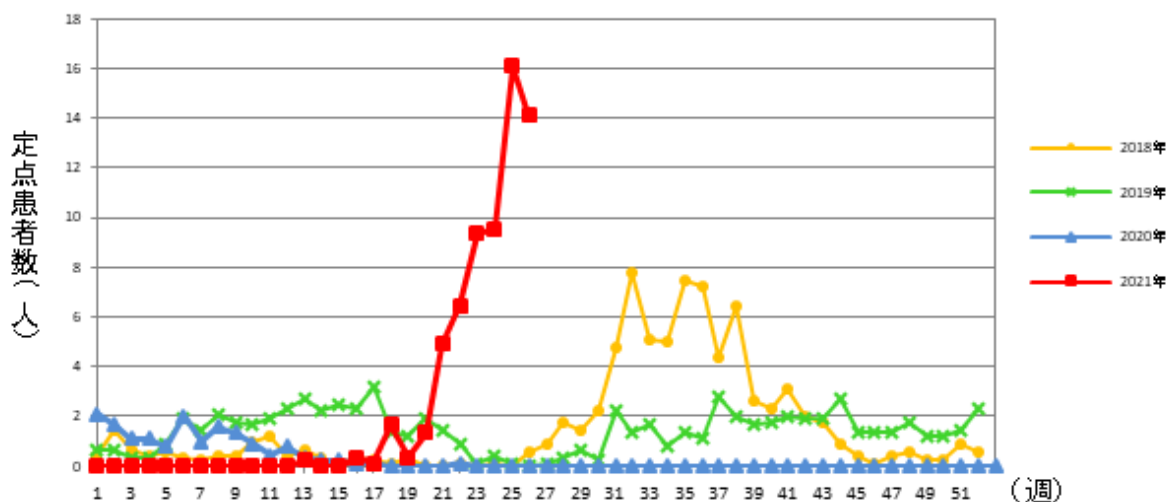


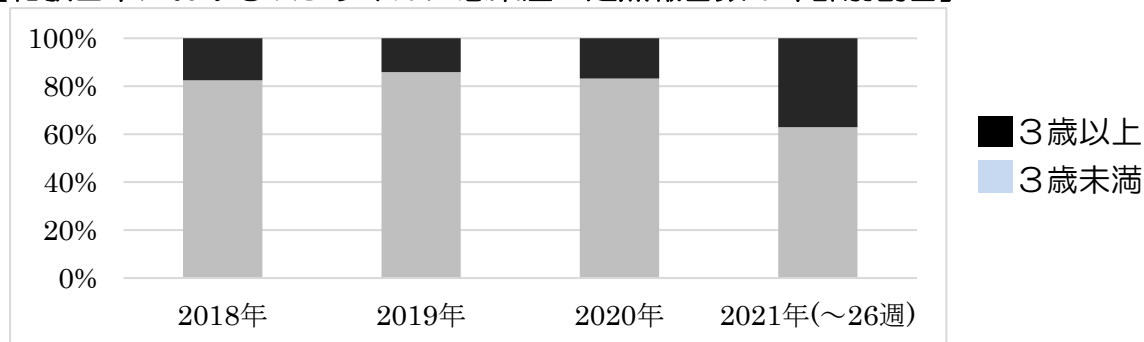
「RSウイルス感染症」定点報告の増加について

RSウイルス感染症は、感染症発生動向調査の小児科定点把握の5類感染症であり、定点医療機関において、医師により症状や所見からRSウイルス感染症が疑われ、かつ検査診断がなされた者が報告の対象となります。和歌山市では、2020年までの報告と比較して、今年19週以降から増加が続いており、全国でも同様の傾向にあります。また、年齢分布についても過去シーズンと大きく異なり、全体に占める3歳以上の割合が増加しています。

【和歌山市におけるRSウイルス感染症の定点報告数】



【和歌山市におけるRSウイルス感染症 定点報告数の年齢別割合】



RSウイルス感染症は、RSウイルスを病原体とする、乳幼児に多く認められる急性呼吸器感染症です。潜伏期は2～8日であり、典型的には4～6日とされています。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の人がRSウイルスの初感染を受けます。初感染の場合、発熱、鼻汁などの上気道症状が出現し、うち約20～30%で気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物品等を介した接触感染が主なものです。飛沫感染対策としてのマスク着用や咳エチケット、接触感染対策としての手洗いや手指衛生といった基本的な対策をご指導いただくとともに、今後のサーベイランスの動向にご留意下さい。